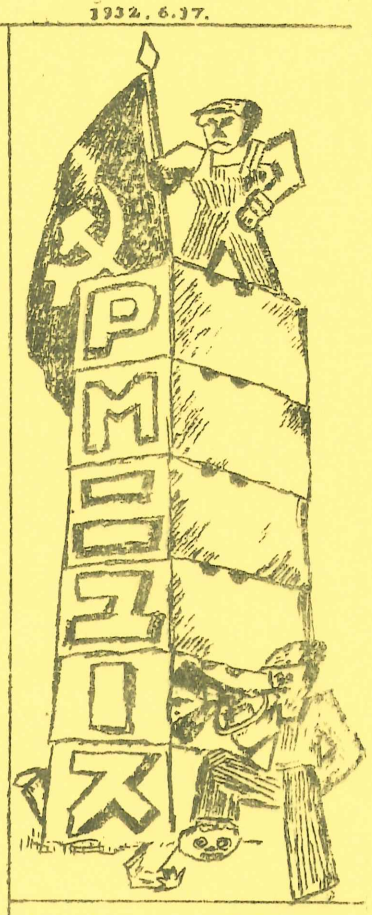
革命競爭は如何に進行してゐるか？



NO. 18　1932. 6. 17.
日本プロレタリア音楽家同盟

革命競爭！　我々の革命競爭は如何に進行してゐるか？　八・一デー迄余すこと二ヶ月に四十日、我々の革命競爭はその最高潮に達して、ピンく〳〵と鳴り響きつゝ進行してゐなければならない時期だ。

コップの陣營内に於て、わがPMの弱小が嘆かられてゐるのは頃に久しいことである。PMの拡大強化！　之は全コップの問題であり從つて日本プロレタリアートの大きな関心事なのだ。今、反動化せる支配階級及びファシスト共が敢て我々に對する戰ひを挑んで来て居り、我々は又、全陣營内の、あらゆるサークルの隅々く革命競爭をまき起こし、之を通じて我が陣營を二倍にも三倍にも強化することによつて、大勝利を以てこの戰ひを戰ひ抜かうとしてゐる。その今、PMがこの革命競爭を通じて如何に拡大強化するか？と云ふことは実に日本プロレタリアートの注目の的なのだ！

コップよりの数次の檄及指令に加へて、我中央執行委員会に書記局は、ニュース[illegible]を通じ、東京支部では独立研究会を通じて革命競爭の意義を徹底し大に対する関心と連帯を促し、部分的には具体的方法をも示してゐた。その結果として我々は如何に我々の活動を高め得たか？　甚だ遺憾なことには、結果は極めて悪い。東京支部の一二の班及び事務部並に仙台支部の報告をも得て居ない。先づ第一に、わが中央部自身では、組織部、教育部、音楽部共に未だ革命競爭のための目標設定を見ない。全国部は出版のために一応目標設定をやつた。がそのための此の努力も放棄されてゐる。之は目標を設定したいより少しはましだらうが、全く計画がない。東京支部になるとこの状態は更に甚しい。各技術班は悉もこの時期に於ける我々の活動の計画、それを通じての強化によつての勝利をかち取ることが出来るのだと云ふ事実を充分に理解してゐないことに依るのだ。又も一つには、我々がかゝる云ふ重大な時期に處するに當つても、こんなだ！　組織の八として充分な規律を具へてゐないと云ふことに依るのだ。

我々は組織全体の問題としてこの弱化を克服しなければならぬことは勿論だ。しかも今に於てこんなだ！　組織の問題にされることは、階級の敵に対するに當つても

組織活動の前進のために

本部組織部の仕事

従来の組織活動の中、本部組織部の活動状況とその無方針を暴露してみよう。ここに於ては一切の「こちらからの」組織活動が行われてゐない。首都部相互の、P.Mの組織との関に包含する大きなギャップ。地方支部に対する指導の欠如。その無活動は明瞭に現れてゐる。之等は大会を目ざして急激に克服の方向に向はねばならぬ。

吾々はコップ拡大中央協や合並にP.M第二回大会を目指して、本部組織の再認識、本部組織部確立の方向に努力し、地方サークル、支部、支部の製造と共に地方の特殊情勢に即応した具体的組織方針の樹立。特に重要地方への積極的働きかけを計画的になさねばならぬ。

以上に附属し吾々は又技術委員会傘下同伴者機関の問題を順番に討ぎし、吾々の組織活動の具体的任務として遂行されなければならぬ。

これらのことがP.M組織部に課された当面の任務となるであらう。

東京支部

一

東京支部組織は現在二十五のサークルを持つて居る。その十サークルの拡大強化が発展的に向上されてゐるサークルは四箇と云つて良い。特に多くの細胞に批判しなければならないことは京浜地方の企業にサークルを持ちながら活動させてゐたことである。この事は我々の組織活動の仕事に対しての無計画性と、ハツキリした方針を厳格に対策立て得ず、音楽サークルだからハーモニカ、或はバイオリンの技術を磨へるだけで良いのだと云う様な方針を立てゐたのみな。計画的なサークル、メンバーの教育的仕事の全然細胞では考へは細胞にはよの欠陥を組織的に解決すべき外。

地区組織の確立の問題

吾々は地区組織の確立の方向に組織活動を押し進めなければならぬ。併しながら力の弱いP.Mの組織では、技術的に地区組織の方法は取り得ない。

各地区のサークルに所属されてゐるオルグの会メーカーを持ち各地区の具体的活動に即した、方針を充分に地区オルグ会で研究し、(地区のサークル活動の報告並びその経験を材料として得るだらう、サークルメンバーの同盟員への引き上げ、サークルの同盟員の教育、(新鮮部員の問題の提起)——以上の方向へ組織活動が進められて、地区委員会を持つ時、吾々の組織の全貌が各地の上への大衆的組織の流れが正しく実践的に指導されるのである。(党員大衆のヘゲモニーが労働運動の上に確保されるのだ) 地区の同盟大衆へ吾々の組織の確保。以上のこと加え東部組織部の活動の進め方に就ての基本的方針である。

二

移動活動部報告

五月中と六月の十日までの移動活動を報告すると。先の通りである。五月中の移動回数十九回(一回は小公演の場所手続上切来なかつた)これを種類別に分けると、国際児童週間が二週間位はされ五ヶ所の形態ピオニールの集まりに歌つたり教へたりして来た。機ピラミック四回、学生消費組合総会に、小公演。免会等に出動し、この中サークルの出来た所二ヶ所あつた。合部二動員された聚衆は、一〇、六三名である。

東京支部組織活動の現状

メーデーカンパを基礎として

組織活動に参加すると共にスローガンが組織部の全同盟の地区サークルへの配属の方法によつて取り上げられた。併し各班、各専門部の部署を強化し組織活動への努力がなされなければならぬ。かあるメンバーは自分の部署を拡張し組織活動をのみやることのみが、P.Mメンバーとしての任務の様に考へてゐるが、かくることによつて完全な、全体としてのP.Mの強化はなし得ない。各班、各専門部の仕事を強化し、それと併行して組織活動がなされなければならぬ。又反面の傾向として、組部員の(地区オルグ)仕事の細胞がありはれてゐる。具体的にみへば、中部並びに北部の地区オルグの活動がほんら積極的になされてゐない。

以上の二つの傾向に対して組織部はカンカクなく批判し、地区会を持ち、二つの傾向の克服をなさねばならぬ。

——組織部——

加書記局等化のため武者加新常任書記に選ばれた。大同は当月いくらべき積動活動加ずつと盛になされてゐるのは感ばしい。大持記を積極的にやられ、積動した場合、必ずサークルにまで報告せしむる様に積動メンバーは努力しなければならない。

積動部の樹てた革命青年のプランに従って突撃しろ！

教育部報告

四月の教育活動の自己批判の上に、研究会は他課から講師を招聘するといふやり方でなく、同盟内で研究し、それを大衆的な研究会で討論することに基礎をおかなければP.Mの活動に即した研究会は不可能だと云はれた。五月は大会へ向つての研究会をそうしたやり方にした。秋関紙四月の一号発会のためにも中心として二回の研究会を持つた加、最新の全体的政治的立ちくれ及び創造的活動の強化の問題で教育部の準備の不充分さがあつたため、討論の発展にまかされ、最少まとまりのつかない感加あつた。第二回組織問題は組織部に委託して、組織部が準備をした加、部長一人に任されて部員の積極的態度が見受られた。組織部の仕事をガッチリやるためにこそ、全同盟員の組織に対する理解を高めることが必要のだ。人の少いのをかこつて。取けづり廻ることに進ぼれるのでなく。こうした問題を中心とした研究会には積極的に組織部の参加を望む。教育部をこの問題を組織部へ一任したのはいけなかつた。教育部組織部の充分な協力研究の上に如何に問題を提起し、如何に発展させ、如何に活動を持し進めねばならないかといふところまでプランを立てて、努力をかけなければならない。

今後も問題の内容によつて、組織部或は調査部と常に連絡しなければならない。

同盟第二回大会迄に
同盟費完納を斗ひとれ！

同志諸君！

財務部は五月二十五日附の二十六号を以て諸君に同盟費完納を要求した。その結果、未だ百%にはゆかぬ加全体としてその成績の高まりを示してゐる。それを各技術部門別に見れば

器楽班　吉%　ハーモニカ班　三五%
声楽班　吾%
作曲班　四〇%

で器楽班加最高を示し、声楽班、作曲班は非常に納入率加低い。

諸君別承知の様に、コップ検挙の革命先輩の一つの重要な項目は各同盟内の同盟費納入加だ。各同盟外部において各技術部門別の革命竟争加当然行はるべき加。諸君は各技術部門同加同盟費完納の革命竟争をおこせ。各技術班長自身は自己の班の納完会に於いて、集会口於いて同盟費を集めよ。

六月二十六日　同盟第二回大会を目指せ

同盟費を完納せよ

——財政部——

東京支部各班報告

ここに入るべき原稿加宮城に押収された。同時に重要会員に徹底させるべき諸重項加発生した加ら之を報告に加へる。

即ち、十九日のコップ九中央拡大会を守るための大会をに於て、P.M同盟員の最初微の手に奪はれた。福田、武者、和田、河野、岸、紅組、の各。我つたメンバーは全日夕刻、学生会館を指ちたの如く結局の報告を見た。

全同盟諸君！　我々は大会を異迄に於えてゐる。レコード吹込、準出版等を、大会迄に完成しようとしてゐる。俺共はメンバーの減少を物ともせず、大会迄に完成しようと努力、九全目指して、この裏切に対する逆襲を組織せねばならぬ。

諸君！　この時こそ会員一人残らず自発的に行動加絶対に必要だ。この際すべての行動会、積極をさぼり部署を放棄するものは最悪の日和見主義者である。

全員の奮起を望む。

大会対策

臨時の拡大書記局で左に当る

臨時拡大書記局、長。山本。武岡。
組織部代理　土屋。
レコード吹込責任者　吉川。
積動音楽隊臨時編成　和泉。西川。秋山。土屋。
救援委員代理。　吉原澄子。
同盟員動員！　救援委員代理倒れ！

音楽部。山本。武岡。
財政部代理。片岡。
出版責任者。武岡。和泉。

PM大衆化のための具体的プラン

この項と次号掲載には前号ニュースの補足として諸報告は前号ニュースに於ける書記局はメーデー以来に於ける組織・教育・企画の諸活動並に書記局の活動を批判し合せて、今後の自然的積極性を要望した。それは好い、併し書記局は現段階のPM加待ってゐる相対的な二つの豚美を克服してゐた。その一はPMの特徴がその全活動が系統的しく非大衆的であること だ。我々が論議となつて活動してゐるに拘らずそれが一向大衆に理解されず注目されてゐないと云ふことだ。つまり我々は宣伝が足りなかつたのだ。PMと云ふのは力と云ふものでこんな活動をやつてゐるよ と云ふ宣伝をあらゆる方法で日常的に計画的にやらねばならないのにそれがなされてゐないのだ。

機関のガニは組織活動の各計画性を欠いてゐる。これについては次の項に於く。

二月の公演と云ひメーデー公演と云ひ我々は自分達の努力と協力との結果、極めて少数の読者が特定の人々であることを知つてゐる。然にメーデー公演でなき二万メーデーの意義と共有者大衆の同化プラス・プロ すると云ふ意図の下に仕事をしてゐなければ特別に百五十人の一大衆とし力和み得ない。

我々は我が同盟員の仕事を活動的に宣伝しなければならない。之を通じて大衆の中にPMへの参加と積極の組織意識を強化させなければならぬ。

このことへの具体的な解決法の一部として

1 コツコツの他同盟の出版物新聞を通じての宣伝

2 他同盟の組織活動の様を通じての宣伝

3 PMの出版活動の促進

4 催しに当つての突撃宣伝隊組織

この内、1については既にコツコツ出版物及新聞に概えとPMの最近の作品一五月一日の朝にを載せる続をとつた。今後継続して対外的に革命宣伝出来る様に、創作活動は特に旺盛に向はせろ。こ に特に強調しなければならぬ事は、音新の宣伝だ。PMが現在の力で月一回の音新発行を斗ひ取つてゐる事は、偉大な成功であるにも拘らず、その大衆化が充分でない。音新部は、独自に宣伝計画を立て、新聞の大衆化を計らなければならぬ。

我々は他同盟の各支部・サークルに対しても、宣伝活動を行ふべきだ。1の激文や、各種の楽譜(特に略譜)をプリントにして、他同盟のサークルに持ち込むことは、以前から、組織部で計画してゐたのだが、時間と人手の不足の為に、永い間手がつけられずにゐる。これは移動活動とも密接な関係にあるものだから、組織部と移動部でプランを立て、多数同盟の参加を得て、仕事を進めねばならぬ。3、企画部では、現在持つてゐる企画のための基金募集のための計画を財政部と共に立てる必要がある。今や都作農村をはじめ

新しい次の四つの仕事をも

新レコード吹込

予定曲

青年同盟、芝浦

大会以前に吹き込む予定

略譜附楽譜出版

唯一の歌集は、今絶版だ。大衆の要望に答へるべき、略譜附楽譜が出版される。

第一輯、

インターナショナル、 青年同盟の歌、おいらの春、ワルシャワンカ、憎しみのるつぼ、小さい同志、同志は倒れぬ、俺はカゞ屋、

第二輯

鐘が鳴れば、山男、芝浦、メーデー近づく、五月一日の朝、働く婦人の歌、海辺の山並え、万国のプロレタリア団結せよ

各八銭、プラント刷り、

一部五銭、

図書部新設

同盟の諸出版物に対する関心を高める為に又、経済的便利のため、今迄の有名無実の図書部を改めて、新しく、教育部に図書係がもうけられた。具体案目下教育部で考慮中

会員様相的に利用しろ、

図書係は和田君になつてもらふ事になつた

革命競争のプラン

前回の文によつて、各部、各班は、未だプランの立つてゐない所が多数立て、又既に立てられてゐる所でも、充分綿密に科学的な見直しの下に、八、一迄の具体的プランを多立て、

今月二十七日 迄に書記局に提出されたし。

進行報告 第二期締切五月末日が近づいただ。

第二期報告は 来月一日 迄に書記局に提出されたし。

前頁補足

●大会の件につき、

重要事案については、それぐ 小委員が、作られ、シンに、審議されなければならぬ。討案の等分方、或は、ぎ案についての審査めるものは、積極的に、積極的にまつてくれ。

●革命競争について、

各班の革命競争目標(募集)

四月目、七五番目、

五月目は、それ以下動員された数、指定した人数、或は、指定した会場等の、その指定人員に対する比率を以て、争ふ。